

クメール語の翻訳シール貼りました!

「絵本を届ける運動」岡山・倉敷市立倉敷第一中1年生有志が参加

10月18日月曜の放課後、岡山県の倉敷市立倉敷第一中学校(田中泰輔校長、生徒755人)の1年生有志が、ベルマーク財団「教育応援隊」のひとつ「絵本を届ける運動」に初めて参加しました。

シャンティ国際ボランティア会(SVA)が、アジアの開発途上国の子どもたちに向けて実施しており、ベルマーク財団は2000年から支援しています。絵本を母国語で読めるよう、翻訳シールを貼って現地に送る運動です。1学年の副主任で、主に数学を教えている宮本由紀子先生が申し込みました。前任校でこの運動を経験したことがあったそうです。

放課後の午後4時過ぎ、事前説明を聞いて興味を持った生徒たちが集まってきました。全部で31人。女子が多いです。この日はカンボジアの子どもたちに送る「ハンダのびっくりプレゼント」(アイリーン・ブラウン作、福本友美子訳/光村図書出版)25冊に現地の言葉、クメール語のシールを貼ります。

最初に動画を見て手順を確認。宮本先生が「シールはあまり内側を切ると元の日本語を隠せない。絵本を読む子がシールをはがしたくなるから注意して」などとポイントを伝えました。密にならないよう距離をとり、2人1組または単独で、隣の教室も使って作業します。



⑥もとの文字が隠れるよう、慎重にシールを貼ります

まず、どんなお話なのか読んでみます。それから翻訳シールを切り離し、絵本に貼っていきます。まっすぐ貼るのは意外と難しそう。そして最後の難関は、奥付ページのシールにクメール語で書く自分の名前。あいうえおをクメール語で示した表と照らし合わせながら慎重に綴っていきます。作業開始から約30分経ったところで、「できた!」と一番乗りのペアが完成本を宮本先生に提出しました。



⑥④教卓で絵本とシールを受け取り



⑥⑥「できた!」と笑顔の一番乗りペア

約1時間後、隣の教室で作業していた女子2人が、それぞれシールを貼った本を提出して、この日の作業は終了。シールを貼った本を重ねると、最初よりもかさが増していました。膨らんだ分だけ、作業した生徒たちの気持ちがかもっているようです。

◇

35人学級で7クラスある1年生は、総合学習の時間を中心にSDGs(持続可



能な開発目標)を学んでいます。今回の作業もSDGs学習の一環として取り組んだそうです。

田中校長は「コロナ禍の今、学校も試行錯誤が続きますが、ピンチはチャンス。いろんな活動をやってみて、マイナスをプラスに変えていきたい。子どもたちには広い視野で周りのことを知ってほしいので、今日の活動は本当に良かったです」と話しました。

大雨の避難は運動靴/高い建物はゆっくり揺れる

静岡・裾野市立富岡第一小で防災科学教室



①宮島亜希子さんのクイズに元気よく「ハイッ」



②雲を作る実験にナダレンジャーも参加



③突風マシンの風に当たる

④高〜積んだブロックが崩れる!

国立研究開発法人防災科学技術研究所(防災科研)とベルマーク財団が共催する防災科学教室が10月14日、静岡県裾野市の市立富岡第一小学校(勝又和仁校長、児童501人)で開かれました。授業を受けるのは3年生の75人。最初は「大雨による災害に備えよう」と題した、防災科研の研究者で気象予報士・防災士の資格を持つ宮島亜希子さんの講演です。

「大雨が降ると何が起るの?」。子どもたちにクイズ形式で問いながら、宮島さんは大雨で避難する際の注意点をあげていきます。どこへ? もちろん高いところへ。靴は? 長靴は水が入ると動けなくなるので運動靴がいい。歩くときは道の真ん中がおすすです。

普段から自宅周辺にどんな危険があるか、考えることが大切だと宮島さんは強調します。一緒に避難する人のことも考えます。お年寄りや赤ちゃんがいればなおさら。

市が作っているハザードマップを事前に確認しておくことも大切。避難所までのコースも「実際に歩いてみてください」と宮島さん。危険はないか、階段の有無は、など色々なことがわかります。最後にみんなで、雨のもとになる雲を作る実験をしました。

続いてDr.ナダレンジャーが、助手のナダレンコと共に登場。いつものカツラ・メガネの変装に加え、コロナ対策のマスクで怪しさ倍増の2人は、トイレ休憩の間に皿回しを披露します。棒を子どもたちに持たせて皿の空中リレーも。「僕も!」「私も!」と子どもたちの輪ができました。

Dr.ナダレンジャーこと納口恭明さん、ナダレンコこと罇優子さんは、ともに防災科研に所属し、サイエンスショーの世界ではとても有名な研究者です。変装や皿回しは、関心を引き付けるための手段。この日も見事に子どもたちの心をつかみました。

「突風マシン」による風当て、雪崩を模した実験、地震の際に起きる地盤の液化化を観察できるペットボトルの器具「エッキー」、長さの異なるスポンジの「ゆらゆら3兄弟」で揺れ方の違いを調べる実験……。子どもたちはもう夢中です。

そして、おなじみの高〜積んだブロックを揺らす実験。低い建物は素早い振動で大きく揺れ、高い建物はゆったりした振動の方が揺れます。ではブロックの載った台車をゆっくり揺らしたら? みんなの期待通り、見事にブロックは途中から崩れました。発泡スチロール製なので、もちろん安全です。「安全にやっているから楽しいんです。でも本当にこんなことが起きたら死んじゃうよ」とナダレンジャー。

司会を務めた3年1組担任の吉川健剛先生は「自分自身も勉強になりました」と感想を話してくれました。